

1. 略歴

| | |
|---------|------------------------------|
| 1990年3月 | 北海道大学文学部文学科言語学専攻課程卒業 |
| 1990年4月 | 旭化成工業株式会社入社 |
| 1994年3月 | 明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業 |
| 1996年3月 | 東京大学大学院人文社会系研究科考古学専門分野修士課程修了 |
| 1996年4月 | 東京大学文学部助手（附属常呂実習施設勤務） |
| 2004年4月 | 北海道常呂町教育委員会社会教育課ところ遺跡の森主幹 |
| 2005年2月 | 博士（文学）学位取得 東京大学大学院人文社会系研究科 |
| 2006年4月 | 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 |

2. 主な研究活動

a 専門分野

北東アジア考古学

b 研究課題

北海道を中心とした北東アジア地域の考古学的研究を専門とするが、特に近年は以下の2点を主要な課題として、北海道やロシア極東地域でフィールドワークを中心とした調査研究を行っている。

- (1) アイヌ文化成立過程の考古学的研究
- (2) 日本列島とアジア大陸の「北回りの交流」に関する研究

c 概要と自己評価

上記研究課題について、2014年度～2015年度には以下の研究をおこなった。

1) 北見市大島遺跡群の発掘調査

北見市大島遺跡群は、擦文文化の竪穴住居等からなる集落遺跡である。アイヌ文化の直接の母体になったと考えられる擦文文化の終末過程や、擦文文化とオホーツク文化の関係について解明するため、北見市大島遺跡群（大島2遺跡）の発掘調査を実施した。この調査は2010年度から継続して実施しており、2013年度までに2軒の竪穴住居跡を完掘し、その年度分までの調査報告書を2015年度末に刊行している。2014年度から2015年度にかけては新たに2軒の竪穴住居跡の調査を行い、竪穴住居跡の構造や出土遺物、住居の廃棄儀礼、オホーツク文化との関連等について新知見を得た。本遺跡群については、2016年度以降も調査を継続する予定である。

2) ロシア・サハリン州での発掘調査

ロシア連邦サハリン州の先史時代遺跡について、2014年度にはアド・ティモボ遺跡群、2015年度にはゴルノザボーツク2遺跡で発掘調査を実施し、ロシア極東の新石器文化編年や、ロシア極東と北海道との関連について新知見を得た。

3) トコロチャシ跡遺跡群の史跡整備事業に伴う発掘調査報告書の刊行

東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室・常呂実習施設と北見市教育委員会が共同し、1995年度から2009年度まで実施した北見市トコロチャシ跡遺跡群の史跡整備事業に伴う発掘調査について、全体の調査成果を総括して2014年度に調査報告書を刊行した。この調査は大学と地域が連携しておこなったもので、史跡の内容や性格を考古学的に解明すると同時に、文化財の保護と活用という地域の課題に対しても取り組み成果をあげた。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、菊池徹夫・宇田川洋編、『オホーツク海沿岸の遺跡とアイヌ文化』、北海道出版企画センター、2014.7
編著、熊木俊朗編、『トコロチャシ跡遺跡群（史跡常呂遺跡）整備に伴う発掘調査報告書』、東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市教育委員会、2015.3
共著、青木豊・鷹野光行編、『地域を活かす遺跡と博物館』、同成社、2015.9
編著、熊木俊朗編、『擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動 ―大島2遺跡の研究（1）―』、東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設、2016.3
単著、熊木俊朗、『ところ文庫32 トコロチャシ跡遺跡群の発掘』、常呂町郷土研究同好会、2016.3

(2) 論文

榊田朋広・熊木俊朗、「特集 2013年の考古学会の動向 北海道 続縄文・擦文・オホーツク以降」、考古学ジャーナル、No.656、142-145頁、2014.5

熊木俊朗、「オホーツク文化と周辺諸文化の交流」、『歴史と地理』、675、1-14頁、2014.6

福田正宏・熊木俊朗・國木田大・大貫静夫、「トコロ 14 類土器とトコロ 13 類土器の再検討」、『日本列島北辺域における新石器／縄文化のプロセスに関する考古学的研究』、東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・東京大学大学院自分社会系研究科附属常呂実習施設、132-148頁、2015.3

福田正宏・グリシェンコ,V.・ワシレフスキー,A.・大貫静夫・熊木俊朗ほか9名、「サハリン新石器時代前期スラブナヤ5遺跡の発掘調査報告」、『東京大学考古学研究室研究紀要』、29、121-146頁、2015.3

熊木俊朗、「オホーツク文化とアイヌ文化」、『季刊考古学』、133、80-81頁、2015.11

(3) 啓蒙

熊木俊朗、「熊骨偶」、設楽博己編、『十二支になった動物たちの考古学』、新泉社、口絵15

熊木俊朗、「オホーツク海岸の冬ごもり」から春さりに来れば、『史学雑誌』、125-3、36-38頁、2016.3

(4) 予稿・会議録

国内会議、福田正宏・グリシェンコ,V.・ワシレフスキー,A.・大貫静夫・佐藤宏之・熊木俊朗ほか8名、「サハリン中部アド・ティモボ遺跡群の考古学的調査(2014年度)」、第16回北アジア調査研究報告会、東京大学、2015.2.21

国内会議、熊木俊朗、「続縄文後半期・オホーツク期・擦文期における「サハリン・ルート」の交流」、北海道考古学会2015年度研究大会「サハリン・千島ルート」再考、北海道大学、2015.5.9

国内会議、熊木俊朗・夏木大吾・中村雄紀、「北見市 大島2遺跡」、北海道考古学会2015年度遺跡報告会、北海道大学、2015.12.12

国内会議、熊木俊朗、「擦文文化堅穴住居跡の構造と廃絶儀礼について」、第17回北アジア調査研究報告会、石川県立歴史博物館、2016.2.28

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、日本赤十字北海道看護大学、「北海道の自然と文化」、2014.6、2015.6

その他、北海道立青少年体験活動支援ネイバル北見、「歴史をさかのぼってみよう！ 講座『トコロヒストリークラブ』」、2014.11

セミナー、北見文化連盟、「オホーツク文化を発掘する ―遺跡の調査でわかった古代オホーツク人の暮らし―」、2015.4

その他、北海道佐呂間高校、「大学で考古学を学ぶ」、2015.10

(2) 学会

日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員(2014.4～2016.3)

(3) 行政

北見市市史編集委員会(2014.4～2016.3)

北見市常呂自治区社会教育推進協議会委員(2014.4～2016.3)

北見市文化財審議会委員(2014.4～2016.3)

北見市史跡整備委員会委員(2014.4～2016.3)

北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル北見運営協力委員会委員(2014.10～2016.3)

斜里町チャシコツ岬上遺跡調査検討委員会委員(2015.10～2016.3)

(4) 学外組織(学協会、省庁を除く)

常呂川流域文化遺産活用推進事業実行委員会、委員長(2014.4～2016.3)